

# 令和4年度 神崎高校 学校評価(教職員) 平均値一覧表

**教育理念:** 本校の教育は、校訓「自主・創造・勤勉」を具現化し、社会に貢献できる「こころ豊かで自立する人間」を育成するものでなければならない。

**教育方針:** 将来、「この地域を支える人材の育成」に重点を置き、基礎学力、社会性、礼節を兼ね備えた健全な人間を育む教育を、地域とともに展開する。

- 教育目標:**
- ①まず、命を大切にでき、日常生活の基礎・基本を備えた人間を育む。
  - ②的確に判断し、自主的・主体的に行動できる人間を育む。
  - ③自己と同様に他を思いやり、尊重しあって生きることができる人間を育む。
  - ④「知徳体」力のバランスがとれ、夢や志の実現に努力できる人間を育む。

## 本年度の重点的な取組とその達成状況(内部評価)

4...よくできた 3...できた 2...あまりできなかった 1...できなかった

			評価平均
A	命を大切にできる心、主体的・対話的で深い学びを実現する教育指導体制を充実する。	1.全領域でQFT(質問づくり)※1を活用し、命の大切さを学ぶ授業、わかる授業を展開する。 2.少人数授業等を展開し、きめ細やかな指導で能力・適性を引き出し、確かな学力を定着させる。 3.多様かつ特色ある選択科目を設定し、生徒のニーズに合致した教育課程を編成する。	3.2
B	受容と共感を生徒理解の軸に据え、全教職員による生徒指導体制を充実する。	1.生徒の個性・内面理解に努め、自己有用感を育み、人間的なふれあいに基づく指導を行う。 2.規律や規則を遵守することの意義を理解させ、克己心・自制心・社会性を身につけさせる。 3.「高校生心のサポートシステム研究開発校」「高等学校生徒の心身の健康への適切な対応を行うための養護教諭の複数配置に関する研究校」として確実に成果をあげる。	3.4
C	生徒一人ひとりの興味・関心・能力・適性に応じた進路指導体制を充実する。	1.保護者との連携のもと、興味・関心・能力を踏まえ、個に応じたガイダンスの充実を図る。 2.自己理解を深めさせ、勤労や職業について考えさせることにより、自立心を涵養する。 3.3機関※2との提携により「自らの意志と責任で進路決定する力」を試す機会を創出する。	3.3
D	地域に信頼され、必要とされる「持続可能な開かれた学校づくり」を地域と連携して進める。	1.学校情報を継続的に地域へ発信し、地域に開かれた信頼される学校づくりに努める。 2.地域行事や奉仕活動に積極的に参加し、地域に必要とされる学校としての認知を高める。 3.学校評議員やPTA・同窓会との連携を密にし、学校支援体制を強化する。	3.5
E	校内研修体制を充実させ、教職員の資質能力等の向上を図る。	1.ブリーフ研修をはじめ幅広い研修により、使命感・倫理観・人間性・専門性を向上させる。 2.内部、外部の「学校評価」を活用し、学校の教育活動を客観的・多角的に見る視点を養う。 3.「人事評価育成システム」や「兵庫県教員資質向上指標」を活用して、ワーク・ライフ・バランスの実現を図るとともに、学校経営への参画意識を高める。	3.7

## 重点的な取組の項目に則した各部・各学年の目標とその達成状況(内部評価)

A	命を大切にできる心、主体的・対話的で深い学びを実現する教育指導体制を充実する。	評価平均	3.2	
教1-2	授業評価アンケートを年2回実施する	3.2	1年1-2 日頃の周囲とのコミュニケーションを通して、「落ち着き」のある環境をつくるとともに、命の大切や人を思いやる心を育てる	2.9
教2-1	生徒の多様な興味・関心や進路希望に応じた、多様な選択科目群を備える	3.3	1年2-1 週末課題や小テストを中心に英・数・国の基礎力をつける。さらに家庭と協力して家庭学習時間の充実を図り、確かな学力を育成する	2.7
教2-2	新指導要領に対応した教育課程を編成する	3.5	2年1-1 小テストや週末課題を中心に英・数・国の基礎分野の学習を徹底させるとともに、3教科以外の教科への興味・関心も促す	3.1
教3-1	観点別評価および従来の10段階評価・5段階評定の評価方法を確立・実践する	3.7	3年1-1 週末課題や小テストを中心に英・数・国の基礎分野の学習を徹底させ、進路実現に向けた力をつけさせる	3.1
教3-2	知識・技能だけでなく、それらを活用した思考力・判断力・表現力の育成や、主体的に学習に取り組む態度を育てるために、各教科に年間指導計画を作成させる	3.4	3年1-2 進学者対象補習、就職者対象補習、校内予備校、各種模試、進路ガイダンスを実施する	3.4
B	受容と共感を生徒理解の軸に据え、全教職員による生徒指導体制を充実する。	評価平均	3.4	
総3-2	生徒の自主性・社会性を向上させるために、定期的な校内大掃除を実施する	3.6	生3-2 心のサポートシステム研究などを通して、自他の生命を尊重し、心の居場所となる学校づくりを目指す	3.4
生1-1	各種講演会などを通して、生徒の興味・関心を引き出し、自分の可能性にチャレンジする力を育てる	3.5	1年1-1 基本的な生活習慣を徹底的に身につけ、規律や規則を遵守することの意義を理解させることで、克己心・自制心を身につけさせる	2.7
生1-2	学校生活意識調査を通して、悩みやいじめの実態を早期に発見し、迅速に対応する	3.8	2年2-1 修学旅行に向けた指導及び時期に応じた内容のLHRにする。	3.6
生2-1	生徒指導の基本方針である三本柱(ダメなものダメ、正しい言葉遣い、学校を美しく)を徹底する	3.3	2年2-2 中堅学年として学校行事や部活動に積極的に参加させ、自己の成長を促す。	3.3
生2-2	朝の通学指導を通して、交通ルールの遵守を徹底させ、安全な登下校を確保する	3.5	3年2-1 学校行事や部活動に積極的に参加することを通して、協調、協働、助け合いの精神を育む	3.5
生3-1	部活動や生徒会活動を通して、協調し他者を思いやる豊かな心を育てる	3.3	3年2-2 行事ごとの振り返りをポートフォリオの記録を中心にを行い、自己の成長につなげる	3.2
C	生徒一人一人の興味・関心・能力・適性に応じた進路指導体制を充実する。	評価平均	3.3	
進1-1	大学、企業見学会を含む進路ガイダンスの充実をはかる	3.7	1年2-2 進路実現に向けた補習・補充、及び個別指導を充実させ、全教科の基礎力獲得に向けて読書の習慣をつけさせる	3.2
進1-2	模試のデータや進路関係の資料等を有効に活用して面談を充実させる	3.3	1年3-2 進路ガイダンスや進路LHRを有効活用し、進路情報の迅速な提供を図り、進路意識を高める	3.2
進2-1	総合やLHRにおいて、企業や学校研究を進めるとともに自己理解を深めさせる	2.9	2年1-2 家庭との連携を密にし、課題の提出を確実にすることで、家庭学習の習慣をつけさせる	2.9
進2-2	就職希望者に対しては企業応募前見学やインターンシップを実施、進学希望者に対してはオープンキャンパスの参加を促す	3.5	2年3-1 進路ガイダンスを有効に活用して、進路に関する情報の的確な提供を図る。	3.4
進3-1	朝の小テストを実施する他、普段の授業に加え、進学補習や就職補習を充実させて、合格する力を養う	3.2	2年3-2 二者面談・三者面談による進路指導を充実させる。	3.6
進3-2	進路希望を同じくする仲間の団結力を活かし、お互いを励まし合いながら、最後まで粘り強く進路実現に取り組ませる	3.4		
D	地域に信頼され、必要とされる「持続可能な開かれた学校づくり」を地域と連携して進める。	評価平均	3.5	
総2-1	定期的にホームページの更新や学校新聞の発行を行う	3.6	3年3-1 二者面談と三者面談を実施し、学年通信や学級通信の発行を通じて、相互の連携を図る	3.4
総2-2	学校評議員・PTA・同窓会等との連携を密にし、サポート体制の構築を図る	3.7	3年3-2 面接指導(学年、校連、ロータリークラブ)や地域とともに心育てる会等を通して、コミュニケーション能力、社会人としてのマナー等を身につける	3.5
1年3-1	学校行事やボランティア参加を通して、様々なやり方や考え方を知るとともに、三者面談や学年通信の発行を通じて、保護者との連携を図る	3.2		
E	校内研修体制を充実させ、教職員の資質能力等の向上を図る。	評価平均	3.7	
総1-1	校連や職員会議で各学年・部署と調整を行い、行事内容を精選する	3.7	総3-1 災害や有事の際に適切に行動できるよう危機管理マニュアルを作成し、防災避難訓練や救急講習などを実施し、教職員の資質向上を図る	3.8
総1-2	各行事担当者と事前協議を行い、円滑に行事が実施できるようにサポートする	3.6	教1-1 公開授業を全教員が年2回実施する。自教科1回、他教科1回の授業観察を全教員が実施する	3.5

※1 QFT(質問づくり):ダン、ロスステインらが開発した「Question Formulation Technique」という質問づくりの定式を通して、人間の知性を解き放つために必要な3つの思考力を養うプログラム

※2 3機関: 神河町、兵庫大学、姫路協働大学